

都市再生整備計画 フォローアップ報告書
須賀川南部地区(第2期)

令和5年3月

福島県須賀川市

1. 数値目標の達成状況の確認(確定値)

様式4-① 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の確定

| 指標 | 単位 | 従前値 | 目標値 | 事後評価 | | | | フォローアップによる確定値 | 計測時期 | フォローアップ時点での達成度 | 確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等 | | 総合所見 | |
|-----|--------------------------|-------|-----|-------|----------|-------|------------|---------------|-------|----------------|------------------------------------|---|---|---|
| | | | | 評価値 | 見込み・確定の別 | 目標達成度 | 1年以内の達成見込み | | | | 理由 | 改善策の方向性 | | |
| 指標1 | 路地deマーケット『Rojima』の出店事業者数 | 店/年総数 | 640 | 1,000 | 327 | 確定 ● | △ | あり | 1,073 | R5.3 | ○ | - | <input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる | 面的な整備が完了し、出店しやすい環境が整ったことで出店者数が増加したと考えられる。今後も引き続き高質な管理を図ることで出店者数を維持できると考えられる。 |
| 指標2 | 空き家・空き地(駐車場の)減少数 | 件 | 37 | 33 | 48 | 確定 ● | × | あり | 40 | R5.3 | △ | 空き家数は入居や解体により減った一方、解体後に空き地や駐車場になっている傾向がみられた。周辺が整備され来訪者が増加し、駐車場の需要が増えたことが要因と考えられる。 | <input checked="" type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる | 倒壊の危険性がある空き家になる前に、空き家が解体されている状況であり、また、空き地や駐車場も整然と管理されていることから、今後敷地への建築需要も見込めると考えられる。今後も改善策を続けることが指標達成に資すると考えられる。 |
| 指標3 | まちづくり団体や文化団体が連携したイベント開催数 | 回/年 | 2 | 10 | 3 | 確定 ● | × | あり | 6 | R5.3 | △ | 新型コロナウイルスの影響により中止になったイベントもあったことからイベント数の増加につながらなかったと考えられる。 | <input checked="" type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる | 新型コロナウイルスが流行する前よりもイベント開催数が増えていることから、新型コロナウイルスが終息するに従い、イベント開催数は増加していくことが考えられる。 |
| 指標4 | 歩行者交通量 | 人 | 572 | 617 | 984 | 確定 ● | / | あり | / | / | / | / | <input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる | すでに目標は達成しているが、令和7年度末が目標年度であるため、引き続き動向を確認していく。 |

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-①から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

様式4-② その他の数値指標の確定

| 指標 | 単位 | 従前値 | 目標値 | 事後評価 | | | | フォローアップによる確定値 | 計測時期 | フォローアップ時点での達成度 | 確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等 | | 総合所見 | |
|-----------|-------------------|-----|-------|------|----------|------|------------|---------------|--------|----------------|------------------------------------|---------|--|--|
| | | | | 評価値 | 見込み・確定の別 | 達成度 | 1年以内の達成見込み | | | | 理由 | 改善策の方向性 | | |
| その他の数値指標1 | 芭蕉記念館・風流のはじめ館入館者数 | 人 | 4,789 | / | 8,220 | 確定 ● | / | / | 22,236 | R5.3 | / | / | <input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる | 風流のはじめ館の整備や南部地区の回遊性の向上などにより、来館者数が増加したと考えられる。 |
| その他の数値指標2 | 南部地区新規出店者数 | 件 | 3 | / | 7 | 確定 ● | / | / | / | / | / | / | <input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる | 南部地区の魅力や回遊性が向上したことなどにより、新規出店者数が増加したと考えられる。 |
| その他の数値指標3 | 地区内の活動団体数 | 人 | 1,973 | / | 2,036 | 確定 ● | / | / | 4,448 | R5.3 | / | / | <input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる | 風流のはじめ館が整備され、地域の活動拠点としての認識が浸透したことにより利用者数が増加したと考えられる。 |

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-②から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

2. 今後のまちづくり方策の検証

様式4-③ 「今後のまちづくり方策」の進捗状況

| 事後評価シート 添付様式5-③に記載した今後のまちづくり方策(事項) | | 実施した具体的な内容 | 実施した結果 | 今後の課題 その他特記事項 |
|--|-------------------------|-----------------------------------|--|---|
| ・成果を持続させるために行う方策 | ソフト事業の拡充 | 官民連携によるエリアプラットフォームの構築および未来ビジョンの策定 | 民間が主体となるエリアプラットフォームが構築され、10年後の未来を見据え、様々な取り組みを実施していくための体制が整えられた。 | 民間との連携を強化し、相互補完を行いながら各種事業を展開していくことで、持続可能なまちづくりが展開できると考えられる。 |
| | 風流のまちづくりの担い手の育成 | 市民活動の発表や地域資源の展示機会の充実 | 風流のはじめ館を拠点とした活動が増加した。 | 担い手となる次世代の住民を巻き込んだ活動を促進する必要があると考えられる。 |
| 改善策 ・まちづくりの目標を達成するための改善策 ・残された課題・新たな課題への対応策 ・その他 必要な改善策 | 新規入居・出店希望者に対する相談支援体制の整備 | 空き家バンクの活用促進(民間HP等でのPR) | 地区内における利用案件は発生しなかった。 | 引き続き空き家バンクのPRを行い、空き家数の減少に努めていく。 |
| | 建物所有者に対する相談支援体制の整備 | 空き家バンクの活用促進(民間HP等でのPR) | 地区内における利用案件は発生しなかった。 | 引き続き空き家バンクのPRを行い、空き家数の減少に努めていく。 |
| | 南部地区内及び周辺の諸施設との連携強化 | 各施設における相互の情報発信 | 各施設や地域団体と連携した同時イベント(R4 和傘アート+まちなかイルミネーション+歴史文化の街灯り景観形成実験)を実施したことで、地区間の回遊を図ることができた。 | 今後も密に連携を図り、地区間の回遊性が高まるよう仕掛けていくことにより、各施設の魅力を生かしたまちづくりができると考えられる。 |
| | 感染症対策の徹底 | アルコール消毒、検温などの基本的な感染症対策の実施 | 安全・安心に交流できる環境を用意したことで、集団感染の発生を抑制した。 | 新型コロナウイルス感染症の猛威は収まってきているが、世情に合わせた柔軟な対応をしていく必要がある。 |

事後評価シート 添付様式5-③から転記

様式4-④ フォローアップにより新たに追加が考えられる今後のまちづくり方策

| 追加が考えられる今後のまちづくり方策 | 具体的内容 | 実施時期 | 実施にあたっての課題 その他特記事項 |
|--------------------|--|------|---|
| 官民が連携した事業の展開 | 民間主体により構築されたエリアプラットフォームや地域団体と連携しながら各種事業を行い、地区の魅力向上や活性化に資するとともに地区外にPRを行い、関係人口の増加を図っていく。 | R5～ | イベントを行う際の参加者や、各種事業に巻き込みたいターゲット層をどのように増やしていくかが課題 |

都市再生整備計画(第1回変更)

須賀川市南部 地区(第2期)

福島県 すかがわし
須賀川市

令和3年1月

| 事業名 | 確認 |
|-----------------|-------------------------------------|
| 都市構造再編集集中支援事業 | <input type="checkbox"/> |
| 都市再生整備計画事業 | <input type="checkbox"/> |
| まちなかウォークアブル推進事業 | <input checked="" type="checkbox"/> |

目標及び計画期間

| | | | | | | | |
|-------|------------|---------|---------------|------------|-----------|----|---------|
| 都道府県名 | 福島県 | 市町村名 | すかがわし 須賀川市 | 地区名 | 須賀川市南部 地区 | 面積 | 14.8 ha |
| 計画期間 | 平成 30 年度 ~ | 令和 7 年度 | 交付期間 | 平成 30 年度 ~ | 令和 2 年度 | | |

目標
 大目標:『静かでうるいおいがある 暮らしやすいまち』～あんみつつ 心でつなぐ 風流のまち～
 ・資源の再生や活用・風流のまちづくり
 ・官民一体となった賑わいのある歩行空間の創出

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況
 須賀川市は福島県中通り地域に位置しており、北は郡山市、西は天栄村、南は鏡石町、玉川村、東は平田村の1市1町3村に隣接する。平成17年4月1日に隣接する旧岩瀬村及び旧長沼町と1市1町1村による市町村合併が行われた。合併後の新市の名称も「須賀川市」となり、郡山市に次ぐ県中の副次都市としてさらに位置づけが高まってきている。
 本地区は、かつて松尾芭蕉が8日間逗留した相楽等躬毛があったため、その周辺区域を対象に平成20年度から24年度まで南部地区都市再生整備事業の事業認可を受け、『風流』をテーマとしたまちづくりを実施し、景観に配慮した都市空間を形成するとともに、地元活動の拠点整備や住民による防災活動の促進を図ってきた。そのなかで、県道に面した住民達が自己建築物に対して景観協定を締結したことにより、地域内に景観に配慮された建築物が増加しているとともに、他の地区内住民も景観協定を参考とした改築を行う事例が増え続けている。
 本市から県都福島市まで約55km、仙台市まで約140kmの距離にある。鎌倉時代以降は城下町として、天正年間以降は奥州街道屈指の宿場町として発達してきた。合併後の市土面積は279.43km²で平成28年2月1日現在、人口77,393人、26,405世帯を数える。また、市内の交通網については、東北縦貫自動車道、国道4号、東北新幹線、JR東北本線、水郡線が通り、さらに空の玄関口である福島空港を有するなど広域的な交通の利便性は非常に高い。
 東日本大震災により、南部地区の重要な活動の拠点であった『芭蕉記念館』が被災し、現在は民間施設内に仮設で運営しているが、市民からは早急な再建が求められている。

課題: まちのスポンジ化による景観とにぎわいの喪失
 ①震災により、空き家・空き地が増加。
 ②来訪者受け入れの拠点である芭蕉記念館が震災で無くなったことから発信力の低下と観光客が減少。
 ③地域住民の交流の場や文化団体の活動の場が減少したことにより、地域住民の活性化とその継続性が失われつつある。

まちづくりの方針
 ①震災により、本市は全壊1,249棟、大規模半壊418棟、その他半壊や一部損壊を含めるとその被害は15,332棟(H25.3.29)となり、本地区でも歴史性ある蔵や文化団体の活動の拠点となっていた芭蕉記念館が被災し、現在、空き家が16件、空き地21件となっている。だが平成27年6月、市の若者職員を中心にまちづくり団体が動き出し、『すかがわ路店deマーケット(以下Rojima)』が本地区の空き家、空き地を活動拠点とし、Rojimaを自己資金により運営を行っている。市では震災で失われた景観の再生やまちづくり団体や文化団体の活動支援として回遊性を高める景観を創出し、さらにRojimaなどのイベントが活性化される土壌を整備する。
 ②本市街地の核となる文化の継承などを通して人々の交流を目的とする「地域交流・観光交流センター」を江戸時代に開設された「郷学所」跡地に整備することにより、文化団体の活動が活性化し、Rojimaなどイベントを通して人の交流が生まれ、文化と商業の融合が図られる。地区全体の活性化が図られることから、現在、空き家や空き地で展開しているRojimaの若者たちや来訪者が住みたいまち、お店を出したいまちとなるため、拠点整備と景観を創出する。
 ③芭蕉記念館の機能を含む地域交流・観光交流センターは「おくのほそ道」「芭蕉と曾良と相楽等躬」などの俳句のまち(俳諧)や歴史的文化や偉人などが外部へ発信され、「文化の継承、交流、体験」などをコンセプトとした事業を展開することにより、観光客(インバウンド)が増加する住民の誇りである文化と歴史を『風流』のまちづくりとして実施することにより、文化団体の活動が活性化され、景観協定(個人建築物)など地域全体の取り組みとして景観に配慮したまちづくりを行い、回遊機能を高めることで文化や景観に導かれた人との交流が生まれ、次世代の人材の育成に繋がる。
 ④地域交流・観光交流センターを拠点とした周辺を「滞在快適性等向上区域」に位置付け、民間事業者が民間空地をオープンスペースとして整備し、来訪者が自由に交流・滞在できる場を提供する「一休型滞在快適性等向上事業」を実施することにより、官民一体となって居心地の良いまちなかを創出する。

将来ビジョン(中長期)
 【須賀川市第8次総合計画】
 本市は、東日本大震災から立ち上がり、市民生活のさらなる安定と「復興期」から「発展期」に向けた新たな段階に踏み出しており、まちづくりの基本に自助・共助・公助の理念を据え「市民との協働のまちづくり」を最大限に進め、市民、地域・事業者、行政がそれぞれの役割をもとに連携して一体的に取り組む必要があり、須賀川への愛着と誇り「シビックプライド」を醸成しながら「ともに歩む自治都市」として、希望に満ちた魅力あるまちづくりを進め、市民満足度を一層向上させることにより、住む人、働く人、育てる人、訪れる人、企業など、あらゆる人に「選ばれるまち須賀川」となることを目指している。

一休型滞在快適性等向上事業の計画

・滞在快適性等向上区域の考え方
 風流のはじめ館を拠点とした周辺を滞在快適性等向上区域に設定する。また、沿道の民間事業者と協働し、官民一体となって居心地の良いまちなかを創出する。
 ・滞在快適性等向上区域での取組
 市が地域交流・観光交流センターを整備することにより魅力的な空間の創出を図り、また、当施設と隣接している民間空地を民間事業者が整備し一体となったオープンスペースとすることで、来訪者が自由に交流・滞在できる場を提供する「一休型滞在快適性等向上事業」を実施する。

目標を定量化する指標

| 指 標 | 単 位 | 定 義 | 目標と指標及び目標値の関連性 | 目標値 | | | |
|--------------------------|-------|---------------------------------------|--|-----|------|-------|------|
| | | | | 従前値 | 基準年度 | 目標値 | 目標年度 |
| 路店deマーケット『Rojima』の出店事業者数 | 店/年総数 | 路店deマーケット『Rojima』の1年間で出店する事業者数の実績による。 | 回遊性の高い施設を整備することにより、その『Rojima』などの活動範囲が広がり、出店事業者数が増加する。 | 640 | H28 | 1,000 | R2 |
| 空き家・空き地(駐車場)の減少数 | 件 | 定住化促進土地利用等調査による本町、馬町の空き家・空き地の調査件数による。 | 回遊性の高い景観に配慮した施設を整備することにより、まちづくり会社(株)こぶろ須賀川を主体とし空き家・空き地が減少する。 | 37 | H27 | 33 | R2 |
| まちづくり団体や文化団体が連携したイベント開催数 | 回/年 | まちづくり団体や文化団体の活動実績による。 | 文化団体の活動拠点や回遊性の高い施設を整備することにより、文化活動の促進が図られ、本地区で活動している『Rojima』などとの連携したイベントが増える。 | 2 | H28 | 10 | R2 |
| 歩行者交通量 | 人 | 滞在快適性等向上区域内の歩行者数 | 官民一体となった賑わいのある歩行者空間の創出 | 572 | R元 | 617 | R7 |

| 計画区域の整備方針 | 方針に合致する主要な事業 |
|---|--|
| <p>整備方針<資源の再生や活用・風流のまちづくり></p> <p>地域文化や地域資源の魅力を伝える情報発信力の向上、及び、「俳句のまち」として俳句に親しめる景観の形成を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史や文化の伝承をとおし、地元住民の交流と新たな来訪者へ向けて地域資源等の情報を発信する「地域交流センターと観光交流センター」を整備 ・地区内の景観形成を促すため、「統一的なデザインの道路」を整備(市道1501号線・市道1502号線・市道1414号線の一部・市道1419号線の一部・市道1426号線) ・地域資源への訪問者誘導や、地区内の風流創出のため、「統一的な地域案内板(サイン)」を整備 ・地区内の風流創出のため、「軒行灯」整備 ・まちづくり団体により、歴史的町並みの創出と問題点を調査し、面格子目かくしを計画的に配置し、景観の向上を図る整備 ・「俳句のまち」として松尾芭蕉が残した足跡をたどる標柱の整備補助 ・伝統文化の継承と来訪者(インバウンド等)への特産品PRの調査・研究 ・南部地区全体の事業評価と地域交流・観光交流センターのモニタリング調査を実施 ・地区内の交流人口増加のため、「まちづくり推進事業(マップ作成・イベントの企画やワークショップ)」の支援 ・地区内の交流人口増加のため、まちづくりPR活動としてパンフレットや資料映像などを作成する<官民一体となった賑わいのある歩行空間の創出> | <ul style="list-style-type: none"> ①地域交流・観光交流センターの整備(基幹事業/高次都市施設) ②市道1501・1502・1414・1419・1426号線(基幹事業/高質空間形成施設) ③地域案内板(基幹事業/地域生活基盤施設) ④軒行灯整備(提案事業/地域創造支援事業) ⑤歴史的町並みの創出・保全(提案事業/地域創造支援事業) ⑥おくのほそ道足跡標柱整備(提案事業/地域創造支援事業) ⑦文化継承と稼ぐまちづくりの調査・研究(提案事業/地域創造支援事業) ⑧都市再生整備計画事業評価(提案事業/事業活用調査) ⑨イベント企画、ワークショップ(提案事業/まちづくり活動推進事業) ⑩PRパンフ、映像資料作成(提案事業/まちづくり活動推進事業) |
| <p>その他</p> | |
| <p>○事業終了後の継続的なまちづくり活動 事業終了後も引き続き、将来ビジョンの達成に向け、中・長期の目標達成を目指し、都市再生整備計画事業の効果を最大限に高めるようなまちづくり活動を引き続き展開して行く。なお、今後のまちづくり活動に結びつく組織立ち上げを期待する。</p> <p>○交付期間中の計画の管理について 各種の事業を円滑に進め、目標に向けて確実に効果を高めるために、事業成果や事業の進め方などについての評価・改善や、今後のまちづくり方策を検討するための事業効果分析を実施する。また、その結果については、ホームページ等により市民に広く情報公開する。</p> <p>○地方再生コンパクトシティの事業実施計画 【官民連携体制】 (対象の民間事業者)株式会社こぶろ須賀川、特定非営利活動法人チャチャチャ21、須賀川ガイドの会、桔禰吟社(俳句の会)、知る古会、他 (民間事業者の役割)地区拠点施設の管理運営や松尾芭蕉の足跡をたどる標柱、軒行灯、面格子目かくし等の景観に配慮した修景施設の整備を主体的に実施する。 (行政(官)の役割)文化の継承における市民交流の場と外部へ発信拠点となる「地域交流・観光交流センター」を整備する。また、まちづくり団体の活動(調査・研究)の成果を景観(足跡標柱など)に取り入れ、市民ニーズにあったもの(石畳舗装など)を整備し、市民や来訪者へ向けて発信し、本地区の歴史と文化に触れてもらう。 (官民連携体制のもとで実施する取組内容)拠点施設の管理運営等を民間委託することで、文化団体や学校等との連携を密にした郷土の文化継承・偉人顕彰を推進する事業を積極的に展開し、地区へ新しい人の流れを生み出し賑わい創出を図る。また、「俳句のまち」としての魅力をより一層伝えるため、「おくのほそ道」において松尾芭蕉が本市に残した足跡をたどる標柱や軒行灯などの整備をNPO法人チャチャチャ21などが中心となって実施する。 (地域の活性化・自立化に向けた効果)「地域交流・観光交流センター」は、震災により被災した芭蕉記念館が有する展示機能等を踏襲しつつも、郷土の偉人継承や俳句を中心とする文化の継承、更にはそれらを通じた人々の交流をコンセプトとする新しい施設であり、これら活動を民間や市民団体が中心となり行うことで、継続的に地区の活性化が図られる。</p> <p>【政策間連携体制】 (庁内体制)都市整備課、文化振興課、商工労政課、観光交流課、建築住宅課の連携体制のもと事業を推進しており、平成30年度に制定する「須賀川市第8次総合計画」に位置づけて整備・活用を図ることとしている。 (連携施策の内容)株式会社こぶろ須賀川、NPO法人チャチャチャ21、須賀川商工会議所などと連携し、須賀川市中心市街地活性化基本計画に基づき、地区内の修景施設の整備や交流拠点施設の整備などの政策間連携が為されている。</p> <p>【持続可能性に係る取組】 (事業完了後の自立化に向けた取組内容)第1期計画から軒行灯整備などの『風流』のまちづくりに携わっているNPO法人チャチャチャ21などが中心となり、地元団体との協働体制を確立することで、事業完了後も地元住民が主体性を持ったまちづくりが継続される。 (人材育成の取組内容)歴史ある名所や句碑などの地域資源を活用し、文化団体や学校などとの連携を図る事業を展開することにより、文化を通じた地域の結びつきや、郷土の偉人を深く知ることが出来、故郷に対する誇りや愛着が育まれ、新たな担い手が育成される。また、本地区の第1期都市再生整備計画で軒行灯整備などを経験しているNPO法人チャチャチャ21を基盤とすることにより、各文化団体(須賀川ふるさとガイドの会、知る古会、桔禰吟社(俳句の会)、須賀川茶道連合会など)との連携と育成が図られる。 (維持管理費の低減の取組内容)第1期計画で整備された馬町広場「結の辻」の日常管理(清掃、草刈り)や植花活動は4町内会で結成された「風流のまち創出プロジェクト」で運営されており、地域交流センターにおいても、敷地内イベントを実施した団体(例えば年10回開催しているRojima)で清掃等を義務付けるなど工夫し、維持管理費の低減を図る。また、提案事業の軒行灯整備補助などについては、NPO法人チャチャチャ21が中心となり桔禰吟社(俳句の会)などが連携し、俳句文化の継承と暗い通りに灯りを取り入れ、景観の向上と防犯に役立ち、その電気代はすべて設置者の負担となる。</p> <p>○一体型滞在快適性等向上事業 市による地域交流センター・観光交流センターの整備にあわせ、民間によるオープンスペースの整備を一体的に実施する。</p> | |

